

LORC Newsletter



Local Human Resources and
Public Policy Development System
Open Research Centre,
Ryukoku University (LORC)

社会言語学研究(コミュニケーション研究)の視点から

第2研究班・龍谷大学法学部准教授 村田 和代

LORCで研究するきっかけとなったのが、2006年の在外研究以来一緒に研究をしているLanguage in the Workplace Project(LWP)です。LWPはNZを中心とした社会言語学研究者の研究プロジェクトで、さまざまな職場の談話を分析しています。文化背景の異なる人々が共に働くにはどうすればよいか、リーダーシップとは何か等を考察し、研究結果は学術分野のみならず人材育成等広く社会に役立てられています。言語研究と実社会が関わる有様を間近にし、私も何かできないだろうかと考えていたときLORCと出会いました。私の研究テーマである話し合い談話や職場談話の研究が地域公共人材育成や協働型社会の構築につながる事がわかり、第2フェーズから参加させていただいています。

協働型社会を構築するために話し合いは必須です。たとえば、地域課題の解決を地方政府単独で行うことは不可能で、地域市民、NPO、企業といったセクターを超えた対話や議論が必要となってきます。LORCでこのようなセクターを超えた人々による話し合いの研究を進める中で、協働型社会を担う人材には、対話や議

論を通して多様な人々を「つなぎ」理解や共感を「ひきだす」コミュニケーション能力が必要であることが見えてきました。単に話し合って結論を導き出すのではなく、話し合いの参加者間にラポール(心理的共感をともなったつながり)を構築し、みんなで協力して課題を解決したり政策を立案する必要があるのです。

LORC第2研究班では<つなぎ・ひきだす>コミュニケーション能力育成のために、社会言語学の研究成果を取り入れたプログラムを開発しています。議論の進行役としてのファシリテーション能力育成プログラムについては、すでに自治体研修や大学院授業等で実施しています。また、来年開設の政策学部で「コミュニケーション・ワークショップ演習」という科目を2年生前期に開きます。グループディスカッションを行うだけでなくその観察を通して話し合いのプロセスや構造を学び、話し合いの参加者として必要なことは何かについて考える科目です。これからも社会言語学研究として持続可能な地域社会構築のお役に立てるようがんばります。

2010年度後期研究班活動報告

第1研究班

PD 的場 信敬

今年度の第1研究班はこれまで、「地域公共人材」像に理論的にアプローチをするべく、第2研究班、第3研究班の研究員の方々と合同で研究会を開催してきました(内容は前回のNewsletter[No.6、7月30日号]をご覧ください)。

現在は主に、LORCの統轄班として、最終成果となる叢書の内容の検討を行っています。叢書は2巻構成で、どちらも第1研究班の斎藤・白石・新川研究員が編者となり、第1巻は『持続可能な地域実現と協働型ガバナンス 日米英の事例比較を通じて』、第2巻は『持続可能な地域実現と地域公共人材 日本における新しい地平』というタイトルが設定されています。出版社は、LORC第1フェーズ終了時に発行した、地域公共人材叢書に引き続き、日本評論社にお世話になります。

去る11月25日(木)には、これまで地域公共人材像について検討してきた主要メンバーが集まり、叢書第

2巻の構成と内容について議論を行いました。(自由主義的・資本主義的)近代社会の価値観を見直しつつ新たな社会統合・連帯のしくみを検討すること、近代社会における「個」への注目や個人の「解放」には意義を見出しつつも、そういう個人が政策主体としてアクティブに機能しかつ互いに連帯することの重要性を意識した議論にすること、その上で、このような連帯を持つ社会の担い手を「地域公共人材」として捉えその重要性を提言すること、などが議論・確認されました。

第1巻については、英国の事例についてEvans研究員より、米国・ポートランドの事例についてJohnson研究員より既に原稿を頂いており、現在、英文原稿の確認作業を編者で行っています。同時に編者3名による内容検討の会議も行っています。今後も、第1研究班は、2つの叢書の内容検討・編集がメインの作業となります。

第2研究班

RA 野口 寛樹

「対話と議論で つなぎ・ひきだす ファシリテート能力研修」

本研修は2010年8月3日～4日の二日間で行われました。京都市における職員研修のひとつとして行われた本研修では市民の方にも参加をいただき、これまでのファシリテート能力研修の実施を踏まえて、内容のさらなる充実が図られています。

現在、全国各地で新たな公共活動のあり方を具現化する試みが続けられています。そして具現化するひとつの解答が、市民はじめ多様な政策主体の連携・協力です。主体同士の立場や利害などの違いを理解し、それを踏まえた連携・協力を可能にしていくため、組織内外の人々をつなぎ、理解や連携をひきだす「対話・議論」の機会およびその能力が必要になります。

本研修は、つなぎ・ひきだす能力がなぜ、どのように必要なのかを理解し、この能力を実践で活用する基礎となる技法を習得するものです。2010年10月14日にはフォローアップ研修も行われ、参加者からも高い評価を得た研修となりました。



「議員のための政策提案能力短期研修」の開催

(2011年1月20、21日)

8月以降も継続して実施してきた第7回～第9回の議会議員プロジェクトの研究会では、「議員のための政策提案能力短期研修～一般質問を使いこなす」と題した短期研修の開催を決定し(来年2011年1月20、21日)、またその実施内容を充実すべく会議を重ねました。

本研修は、「市民の議会」を支える議員の政策形成能力、なかでも議会での一般質問に焦点を当て、実際に参加者が行った一般質問の分析や検証の議論を通じて、その「政策提案能力」を伸ばすことを目的としています。現職の議会議員の方々、市民有識者、自治体関係者、研究者に参加をいただき実現した研修プログラムです。この研修が形になったこと自体、LORCが目指すもの、参加・協働型社会を表すひとつの形になっています。現在参加者募集を行っています。研修結果をお楽しみにしていただければと思います。



第3研究班

RA 定松 功・PD 井上 芳恵

協働型地域経営部会

協働型地域経営部会では、事務事業分析の成果として出てくる地域コミュニティビジネスのコスト評価手法の研究を進めており、平成22年度から亀岡市で実施されている「公共事業の協働型再編研修」の視察を11月11日(木)に実施し、これまで検討を進めてきた評価手法の妥当性を検証してきました。また、これまでの部会での検討内容に沿って亀岡市研修で検討対象となっている事務事業の活動割合などのヒアリング調査を行いました。来年1月28日(金)に開催予定の部会では、研修視察の結果、事務事業のヒアリング内容に基づきビジネスモデルのコスト計算を実施し、コスト評価手法を確立させていきます。

持続型社会システム部会

8月2日(月)に第6回部会を開催しました。立命館大学の鐘ヶ江秀彦先生にお越しいただき、亀岡カーボンマイナスプロジェクトの基本的な枠組み、国際的な環境に関する動向、その中での炭素隔離技術の位置づけ、データ蓄積への期待、竹端材の炭化実験、炭堆肥投入実験、市場調査など、これまでの取り組みについて報告をしていただきました。



クールベジ給食の提供



竹林伐採の様子

た。また、事務局より昨年度の保津保育所における食育・環境教育の取り組み、ならびに本年度の亀岡市内小中学校における取り組みについて報告を行いました。今後の展開として、地域の竹林整備をつうじた炭化による温室効果ガス削減効果に関するLCA調査とコスト分析について説明し、質疑応答を行いました。

亀岡市の全18小学校で11月第4週～12月第2週に計4回、炭素埋設農法によって栽培されたクールベジタブルを活用した給食が提供されており、給食だよりやチラシによって、児童・生徒や家庭に取り組みを紹介し、環境に対する意識を高めてもらっています。

また、亀岡カーボンマイナスプロジェクトの一環として、11月24日(水)～11月27日(土)にかけて(株)アグリパートナー宮崎が開発したブッシュチョッパーを使用した竹林整備・炭化実験を亀岡市川原林地区にて実施しました。この実験では、炭素隔離農法に使用するバイオ炭を地位の未利用バイオマスである放置竹林を活用した場合のエネルギー消費量を把握し、LCA評価に基づいた二酸化炭素削減効果を確認するために行いました。

地域公共人材WG

今年度は「コミュニティの拠点としての寺」をテーマに、應典院の秋田光彦住職ならびに、グリーン活動に取り組むLive on 代表の尾角光美さんにヒアリング調査を行いました。昨年度までに3つの事例についてヒアリング調査を行っており、計4事例について、「『場所』の形成と地域公共人材」をテーマにLORCで発行を予定している叢書に向けた取りまとめと、ワーキングペーパーの作成を予定しています。

LORC関連の主な研究会・会議・イベント等実施状況

7月31日 ~9月17日	iSB公共未来塾第1期実施	地域社会の課題解決と協働型社会を支える公共性と市民性を持った地域公共人材を育成する起業塾を開催
8月2日(月)	第3班 第6回持続型社会システム部会	カーボンマイナスプロジェクトにおける立命館大学の取組、今年度の小・中学校での取組、今後に向けた展開、その他
8月3~4日	第2班 京都市ファシリテーション研修	オリエンテーションと講義、グループワークディスカッション、ファシリテータ実践
8月11日(水)	第2班 第7回議会議員プロジェクト	「聞き書き地方議員」作成計画、「公共政策ゲーム」開発計画の進行、自治体議員むけ院科目・研修プログラムの検討
9月25-26日	第3回 地域公共人材WGヒアリング	大工塾に関するヒアリング・現地調査
9月27日(月)	第3班 亀岡市協働型地域経営部会視察	亀岡市「公共事業の協働型再編研修」の視察
10月5日(火)	第3班 地域公共人材WGヒアリング	應典院に関するヒアリング調査(應典院住職 秋田光彦氏)
10月7日(木)	第2班 第8回議会議員プロジェクト	「聞き書き地方議員」の進行状況、自治体議員むけ短期研修プログラムの府大における実現可能生、自治体議員むけ院科目/研修プログラムの検討
10月10日(月)	iSB公共未来塾ビジネスプランコンペ開催	事業プラン発表、二次審査
10月14日(木)	第2班 京都市ファシリテーション研修フォローアップ	講義「対話と議論で<つながりひきだす>ファシリテート能力研修をふりかえる」、「研修で変わったこと、変わらなかったこと」
11月5日(金)	第2班 第9回議会議員プロジェクト	1月の短期プログラム試行について
11月11日(木)	第3班 亀岡市協働型地域経営部会視察	亀岡市「公共事業の協働型再編研修」の視察
11月24~27日	第3班 亀岡カーボンマイナスプロジェクト竹林整備・炭化実験	亀岡市川原林地区で放置竹林を整備し炭化LCA評価に基づいた二酸化炭素削減効果を測定
11月26日(金)	第3班 地域公共人材WGヒアリング	應典院に関連するヒアリング調査(Live on 尾角光美氏)

今後のLORC関連の予定

12月2日(木)	JSTプロジェクト推進委員会
12月9日(木)	「職業教育訓練資格フレームワーク研究会」(於 日本工業倶楽部)
12月9日(木)	JSTプロジェクト推進委員会
12月10日(金)	2010年度LORC国際シンポジウム『生涯教育社会実現に向けた職能教育と高等教育の役割について EU共通資格フレームワーク開発の現状から』
12月17日(金)	第2班 第10回議会議員プロジェクト
1月13日(木)	第3班 第7回持続型社会システム部会
1月20~21日	LORC企画研修 議員のための政策提案能力短期研修
1月28日(金)	第3班 第6回持続型社会システム部会
2月4~5日	iSB公共未来塾 三次審査



内閣府「地域社会雇用創造事業」 - iSB公共未来塾 -

RA 櫻井 あかね

< ビジネスプラン作成に奮闘 >

2010年7月31日からスタートした「iSB公共未来塾」には20名の受講生が参加し、9月17日の修了式まで暑い夏を過ごしました。現役大学生、社会人、退職後の方まで幅広い年齢層の人が集まり、互いに刺激しあう活発な講座となりました。

iSB公共未来塾は、内閣府「地域社会雇用創造事業」の一環として社会的企業の育成を支援する起業塾です。2010年から2011年にかけて、東京・横浜・名古屋・京都・佐賀の各地で開催され、京都ではLORCが企画・運営を担っています。

カリキュラムは、講義、演習、ヒアリング調査、ビジネスプラン作成で構成され、受講生が起業にむけて自分のプランをつくるのが目的です。座学だけでは

なく、先輩の社会起業家から話を聞いたり現場のスタッフに会いながらプランを練り上げ、全員が事業計画書を提出することができました。

< コンペでは6名が選出 >

講座修了後に応募が開始されたコンペティションには、名古屋・京都・佐賀などから40件の応募があり、10月11日にハートピア京都においてビジネスプランコンペが開催されました。一般にも公開されたコンペでは、パワーポイントを使った発表と審査員との質疑応答があり、審査の結果12名が選ばれ、まずは50万円を獲得。京都からは6名が残り、現在は来年2月に行われる三次審査にむけて、起業の準備を進めているところです。



ヒアリング調査（京都三条ラジオカフェ、株式会社マイファームの農園）



コンペティションの様子

JST社会技術研究開発事業

「地域再生型環境エネルギーシステム実装のための広域公共人材育成・活用システムの形成」

RA 定松 功

独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センターが提案募集していた平成22年度社会技術研究開発事業の3つの研究開発プログラムのうち、「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」において、LORC第3研究班代表富野研究員が早稲田大学と共同して申請を行った研究開発プロジェクト「地域再生型環境エネルギーシステム実装のための広域公共人材育成・活用システムの形成」が採択されました。

この研究開発プロジェクトは、化石燃料に依存した社会から脱石油社会への構造改革を念頭におき、再生可能エネルギーの利用を進めるために、地域社会で専門的かつセクター横断的な視点を持った地域公共人材の育成を行い、地域社会で実際に地域公共人材の活用を進めるプロジェクトです。

具体的には、市民、地方自治体、NPO、企業などで再生可能エネルギー利用技術を地域社会に実装する為に必要な工学的理解と、法学、行政学などの社会科学学的視点を融合させ、専門性と地域主体形成のコーディネート能力をもった人材を育成し、そうした人材ネットワーク（拠点）を地域に形成することで、実行性の高い再生可能エネルギー利用を進め、CO₂削減に結びつくプロジェクトを地域で展開し、社会実装を進めていきます。さらには、プロジェクトの展開で明らかとなる社会的課題を踏まえて国レベルでの人材育成・活用に関する制度設計の提案を行います。

12月2日、9日に研究員の方に来ていただいてプロジェクト推進委員会（仮称）を開催し、研究推進や実施の体制、今後の研究計画について協議を行います。

2010年度LORC国際シンポジウム 「生涯教育社会実現に向けた職能教育と高等教育の役割について EU共通資格フレームワーク開発の現状から」

下記の要領でシンポジウムを開催します。京都地域の生涯学習社会の新時代における制度、仕組みづくりの試みとして、EQFの制度構築の現状と課題、そして、京都における資格フレームワークの将来に向けた発展の可能性について議論することを目的としています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



日時	12月10日(金) 13:30~17:30 (13:15開場)
会場	龍谷大学深草学舎 21号館101教室 龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(LORC)
主催	地域公共人材大学連携事業
講演者	パトリック・ウェルキン氏(元OECDシニアエコノミスト) イザベル・ル・ミューラー氏(CEDEFOP プロジェクトマネージャー)
報告者	富野 暉一郎氏(龍谷大学法学部教授)
ディスカッサント	岩田 克彦氏(職業能力開発総合大学校教授) ほか、ウェルキン氏、ル・ミューラー氏、富野氏

ご挨拶

地域公共人材大学連携事業担当PD平岡の退任に伴い、RA 2名が加わりました。LORC、地域公共人材大学連携事業期間はあと半年となりますが引き続き、よろしくお願いたします。

PD 平岡 俊一

2009年1月より約1年半にわたり、戦略的大学連携支援事業担当のPDとしてお世話になりました。短い期間でしたが、その間、実に多様な方々と仕事を一緒にさせていただき、いろいろなことを学ばせていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在は、北海道教育大学釧路校で教員として勤務しております。まだ3ヶ月程しか過ぎておりませんが、北海道は他にはない魅力的な地域資源を数多く有している一方で、社会的・経済的に深刻な問題・課題を多く抱えていることを、仕事・生活などさまざまな場面で実感する日々です。地域のさまざまな方とのつながりを大事にしながら、これまで学んだ「地域公共人材」の視点から、どのような取り組みができるかじっくりと考えていく所存です。

RA 川本 充

9月から、地域公共人材大学連携事業に従事するRAとしてお世話になっております。修士課程までは、国際関係学を専攻しておりましたので、国際関係学・国際環境法の視点から地球環境問題についてアプローチしてきました。少し異色ではございますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以前の所属：京都大学地球環境学大学院博士課程
(単位認定退学)

専門・関心領域：国際関係学、国際環境法、持続可能な開発のガバナンスなど

RA 宗田 勝也

9月から、戦略的大学連携支援事業のRAとしてお世話になっております。所属するソーシャル・イノベーション研究コースは、実践的な研究を通じて地域課題の解決や社会変革を目指しており、私自身は日頃、コミュニティFMによる難民支援の現場を事例として研究を進めております。セクターを超えた発想ができ、セクターを結ぶ行動力のある人材を育成する本事業に貢献できるよう全力で頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

所属：同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コース博士後期課程
専門・関心領域：難民支援、人間の安全保障、コミュニティ・メディアのネットワーク、社会的起業

<編集・発行>

龍谷大学 地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(LORC) 支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学深草学者紫光館3F

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240 HP: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/>

